

集中豪雨・台風への備えは万全ですか？



集中豪雨や台風などにより、全国各地で大規模な被害が毎年発生しています。日頃からの備えと、万が一の場合の行動についてチェックしましょう。

日頃からの備え

ハザードマップで危険箇所を確認

お住まいの地域のハザードマップで、危険箇所や避難所を確認しましょう。

なお、危険箇所の表示がない場所でも、雨の降り方などによって浸水などの被害が発生することがあります。



非常時の持ち出し品を準備

懐中電灯、携帯ラジオ、常備薬、非常食、飲料水、貴重品などを準備して、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

また、乳児がいるご家庭では、ミルクや紙おむつなども準備しておきましょう。



建物や周囲の点検・整理

建物の点検とともに、周りにある風に飛ばされそうなものは固定するか、屋内に片づけましょう。バルコニーの排水口や側溝を清掃し浸水対策をしましょう。

また、低い土地の場合は「土のう」などをあらかじめ準備しておきましょう。



家族の安否確認の方法を決める

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でも、お互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所を決めておきましょう。万が一連絡が取れない場合は、災害用伝言ダイヤル(171)を活用しましょう。



自然災害は、時に広範囲かつ甚大な被害をもたらします。「自らの命は自らが守る」という自助の意識を持ち、自分は災害に遭わないという思い込みで陥ることなく、自らの判断で避難行動をとることが原則です。

万が一の場合の行動

防災気象情報や雨の降り方を確認

空の様子や雨の降り方に注意するとともに、テレビやラジオ、スマートフォンなどを活用し、防災気象情報を随時確認しましょう。

また、事前情報なく、急に大雨が降りだす場合もあります。空の様子が変化したときや、急激に気温が低下したときなどは注意しましょう。



避難情報が発令されたらすぐに避難

避難情報が発令されたり、身の危険を感じたら、すぐに避難しましょう。避難するときは、動きやすい服装で、一人では行動せずに、家族や近所の人と一緒に行動しましょう。

また、夜間や大雨の中で、指定避難場所へ移動することが逆に危険な場合もあります。あらかじめ、近くの自主避難場所を決めておくなど、状況に応じて適切に避難先を選択しましょう。



災害への心構えを高める

雨の降り方や周囲の状況に注意
危険を感じたら自主避難

いつでも避難できるよう準備
避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある方、乳幼児)とその支援者は避難開始

全員避難

命を守る行動をとる